

# 地蔵杉

## ポネノ山雑感

2018年4月23日

二碼敏郎

長老ヶ岳から北東に伸びる稜線上に898.8mの三角点が地蔵杉。一万五千の地形図には山名の記載は無く無名峰である。

美山町三葎集落の河川合流点で東谷川林道に向かうが、林道の入り口が鎖で封鎖されている。仕方なく未舗装の林道歩きが始まる。東谷川の両サイドは岩盤で出来ているが、十分な湿度が保たれているのか、様々な種類の苔が緑鮮やかで、急斜面ながら植生が豊富でネコノメソウなどを観察しながら歩いていると退屈することはない。2キロほど進むと、大きな谷の合流点に出る。

ここに地蔵杉から南に伸びる稜線が沈み込んでいる。当初この尾根を登る予定であったが、尾根の末端を観察すると露岩に覆われて厳しそうだったので、急遽地形図に書かれた東谷川支流沿いの林道を登る

事にする。林道は右の左岸にげられおり、岩盤の絶壁になっている。

標高580mあたりで林道は右手から合流する谷沿いに曲がる。集中豪雨の影響が林道は深く抉れており、作業用の重機が置か



れてい

る。

碎石

で簡易

舗装さ

れた林

道が峠

まで続

く。峠

の北斜

面は皆

然林で

落葉色の爽やかな風が吹いている。林床はイワカガミの花盛りであった。

峠からも小型シヨベルカーで作ったと思われる道が続いているが、私たちは稜線に上がり自然林を歩く。イヌナなどの芽生

えの中でコバノミツバツツジが咲いて新緑に映える。

ムシカリの白い花が丁度見ごろである。

近づいて挨拶する。地蔵杉の南斜面は崩落が始まっている。岩肌のため樹木や草本が定着できず剥き出しの斜面が痛々しい。それでも片隅にイワカガミの花がピンクや白い花を咲かせている。しかし、荒れた急斜面を登るのは随分苦しい作業である。顔を上げると、対岸の長老ヶ岳の長い稜線が着く見える。

コシアブラの大木が強風で倒されたのか、それでも残された一部の根から養分を吸い上げて芽事に芽吹いている。

山頂付近はブナ林であるが、樹間が疎らで林床は剥き出しで荒れている。子孫の芽生えが無いので親木が枯れると荒れた地表が大きく広がるのだろう。

地蔵杉山頂はブナに囲まれている。12時を少し回っているのでもうここでランチタイム。見上げるとブナの新緑が輝いて眩しい。穏やかな時が流れている。コトを飲みなが

ら風を感じている。

下山は、少し下がった場所から南に伸びる稜線を下る事にする。踏み込んだ斜面はブナの二次林が美しく広がる快適空間。

しかし、やがて灌木が少しうるさくなり始め、鬱道をトレースするが、動物たちのように上手く灌木を潜れず苦勞する。稜線に防獣ネットの残骸があり、尾根の東斜面はヒノキの植林帯になる。西面は自然林。灌木の少ない自然林のやや下側をトラバース気味に歩いたり稜線に乗ったり、動物た



P 763  
小尾  
休息  
久ぶ  
いる  
歩いて  
複雑に  
をして  
分苦勞  
ちも自

りに参加した区女子は登山靴がロカソッドで柔らかいせいもあるが、少し苦しそうである。初夏並みの気温もそれに拍車をかけている。

イヌブナの若葉の産毛を光らせ輝いている。指で触れるとビロードのような感触で柔らかい。風で若葉がそよぎ小魚の集団遊



泳のよ  
うにも  
見える。  
標高  
700 m  
辺りで  
尾根が  
分岐す  
る。進  
むべき  
尾根は  
痩せ尾

根なので注意が必要である。尾根の分岐点から少し進むと、この辺りからはほぼ稜線上进行けるようになる。若干低木が足元で

邪魔をするが、立ち止まる事は少なくなる。

小ピーク 610 界近づくと両サイドが切り立って植林が出来ないのか自然林が多くなる。610 界から暫く行くと再び尾根の分岐になるが、自然と左の進むべき道に誘導されていた。斜面が急になり露岩が多くなると慎重な足運びが要求される。眼下に白い花を咲かせたサイフリボク別名シテザクラが美しい。ますます露岩の険しい道になると沢音が大きくなり、ようやく沢に降り立つ。沢からは簡単に林道に上がった。

ここからは朝歩いた林道歩きである。

★コース 登山口 8 : 57 ~ 二又

9 : 40 ~ 林道終点 登山口 10 : 20

発 25 ~ コル 10 : 48 発 53 ~

793 甲 1 : 20 ~ 山頂 12 : 06

発 40 ~ 763 甲 3 : 15 ~

610 甲 3 : 50 ~ 林道 14 : 30

~ 登山口 15 : 10

★メンバー 三鍋 他 2 名

★地形図 島